
SHOOTING STAR ROCKMAN/DECADE/

穴山銀次郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SHOOTING STAR ROCKMAN / DECADE /

【Nコード】

N5618H

【作者名】

穴山銀次郎

【あらすじ】

地球を3度も救った戦士ロックマンこと星河スバルは地球に平和が戻ったことにより、平凡に暮らし始めた。しかし、再び新たな戦いが始ろうとしている。

序章 異世界からの戦士

メテオGが消滅してから数ヶ月、地球を3度も救った青きヒーロー、ロックマンこと星河スバルは平凡に暮らした。
そして12月、終業式が終わり、冬休みに入った。

『なあ、スバル。早く帰ろうぜ？ 展望台行くの飽きてんだよ・・・』
『もうちょつと待ってよ。』

星を眺めている少年の名は星河スバル。
そして、ハンターV Gから喋り出すウィザード、ウォーロック。
数分後・・・

「ふう、そろそろ帰るか。」
『やっと帰れたぜ・・・』

スバルとウォーロックは自宅へ帰った。
その同刻、サテラポリス本部で大事件が始まった。

「まったく、何で俺がこんなことしなきゃならねえんだ？」

彼はジャック。
数ヶ月前、姉のクインティアと共にディーラーの一員としてクリムゾン集めをしていた。

今は自首され、改心した後、サテラポリスの一員として働いている。

「ん？」

ジャック謎のオーロラが現れるのを目撃した。

そのオーロラからノイズプログラムを手にとった男が見えた。

その男の正体は海東大樹。

又の名、仮面ライダーディエンド。

大樹はディエンドの世界からやってきた異世界の住人であり、各世界のお宝を手に入れる旅をしていた。

「ほぅ、これはたいしたお宝だ。」

「なっ、てめえ何者だ!？」

ジャックは大樹に尋ねた。

「ま、通りすがりの仮面ライダーってトコかな。」

「仮面ライダー?」

ジャックは初めて聞く言葉の意味を尋ねようとするが・・・

「ふふっ、じゃっ!」

大樹はそう告げ、ノイズプログラムを持ち、サテラポリス本部から立ち去った。

「あっ、待てよ! それをどうするつもりだ!？」

ジャックは大樹を追った。

その同刻、ロッポンドーヒルズのビルの中、謎のオーロラが現れ、そのオーロラから謎の青年が現れた。

「フフフ・・・この世界なら征服できる。この世界にライダーはいない。この世界は僕のものだ。・・・ハハハハハハハ、フハハ

ハハハハハ！！」

謎の青年が笑い始めた。

その青年は謎のバックルを取り出し、2枚のカードをバックルにセツトした。

【K a m e n R i d e ∴ D E L T A ∴ L I O - T R O O P E R S
！】

謎の青年は、仮面ライダーデルタとライオトルーパー3人を召喚した。

「フフフフフ・・・」

謎の青年は再び笑い出した。

翌日、コダマタウンが電波ウィルス軍団とそのリーダーであるジャミングーに襲われていた。

それを立ち向かったのがロックマンである。

ロックマンは地球の危機を3度も阻止したヒーロー。

その正体はスバルである。

スバルがウォーロックと電波変換するとロックマンに変身するのだ。

「バトルカード、ガトリング！」

ガトリングで電波ウィルスを一掃。

「おのれ、ロックマンめ・・・うわっ！！」

「『！?』」

ジャミングーがオートバイによって倒れた。

「この世界にも怪人がいるって訳か・・・それにしても、なんだその顔は？」

突然現れた男がヘルメットを外した。

その男は首からトイカメラを提げている。

彼の名は門矢士。

又の名、仮面ライダーディケイド。

彼はすべての世界を旅し、それぞれの世界のライダーと共に怪人たちを倒したのだ。

「貴様、許さんぞ!!」

いきなり轢かれたのか怒りが爆発した。

士はディケイドライバーを取り出し、カードを取り出した。

「変身！」

士はカードをディケイドライバーにセットした。

【K a m e n R i d e D E C A D E !】

士が仮面ライダーディケイドに変身した。

そして、ディケイドはジャミンガーに攻撃を始めた。

1章 コダマタウンの襲撃

デイクイドはジャミンガーの攻撃を避けながら攻撃する。

「すぐに終わらせてやる。」

デイクイドはライドブッカーからカードを取り出し、それを装鎮した。

【Attack Ride SLASH!】

デイクイドのライドブッカーがソードモードに変形し、ジャミンガーを斬りつけた。

「グガアアアアアアッ!!!!!!」

ジャミンガーが爆発し、消えてしまった。

「すごい・・・」

『なんなんだ、あいつは!?!』

デイクイドの戦いぶりに驚きを隠せないロックマンとウォーロック。

「ん?」

デイクイドが振り向いた先には仮面ライダーデルタとライオトルーパーである。

「熱烈歓迎って奴か。」

ディケイドはライドブッカーからカードを取り出し、ディケイドライバーに装鎮した。

【K a m e n R i d e F A I Z !】

ディケイドの姿がファイズの姿になった。

『な、なんだあ!?!』

「姿が変わった!?!」

ロックマンとウォーロックは凄いとしか言い様が無かった。

「少年! お前はそこの3人と戦ってる!」

「えっ!? あ、はい!」

ディケイドファイズが言う3人とはライオトルーパーのことである。ロックマンはライオトルーパーに戦闘を始めた。

ディケイドファイズは再びカードを取り出し、ディケイドライバーに装鎮した。

【A t t a c k R i d e A U T O - V A Z I N !】

先程放置していたバイク、ディケイダーがオートバジンに代わり、ビークルモードからバトルモードへと変形した。

「お前が銃ならこっちは剣だ。」

ディケイドファイズはオートバジンのハンドル部分を引き抜くと、紅い刃が現れた。

その刃をファイズの世界ではファイズエッジと呼ぶ。
ディケイドファイズはファイズエッジを握り、デルタに戦闘を行う。

2章 予期せぬもの

ディケイドファイズはフォトンエッジでデルタを斬りつけ、オートバジンは援護するように射撃する。

「グワッ！ グオッ！」

デルタはその攻撃に当然怯んでしまう。
しかし、ディケイドファイズは容赦はしない。

「ロックバスター！」

ロックマンは3体のライオトルーパーにロックバスターで狙撃する。
しかし、ライオトルーパーはブレードモード状態のアクセレイガンでロックバスターの砲撃を受け流した。

「バトルカード、ガトリング！」

ロックマンはガトリングをプレデーションし、3体のライオトルーパーを再び狙撃した。

「ウオオッ！！！」

「グアアッ！！！」

「ウグウッ！！！」

今度は受け流しきれず後退する。

「終わらせてやるぜ！」

ディケイドファイズは一枚のカードを出し、それをディケイドライバーに装鎮する。

【FINAL ATTACK RIDE FAFAFAFI Z!】

ディケイドファイズはデルタを一蹴りした。

すると、デルタの腹部に円錐状のポイント弾がドリルと化し、デルタの動きを封じられた。

デルタは必死にもがくが、微動だにしなかった。

ディケイドファイズはデルタに目掛けてジャンプし、クリムゾンスマッシュを使った。

「!!! グガアアアアアアアッ!!!!!!」

ディケイドファイズが元のディケイドに戻った。

そしてクリムゾンスマッシュを受けたデルタは灰となり、消えてしまった。

「ウワアアアアアッ!?!」

ロックマンの叫び声に反応するディケイド。

その理由は、ライオトルーパーがオルフェノクに変身したからである。

オックスオルフェノク、マンティスオルフェノク、エレファントオルフェノクの姿があった。

ロックマンはロックバスターで砲撃するが、脅えていたためほとんど当たっていなかった。

「しょうがねえな・・・」

ディケイドはその様子を見て呆れながらもカードをディケイドライバーに装鎮した。

【KAMEN RIDE KABUTO!】

ディケイドの姿がカブトへと変わった。

そして、ディケイドカブトはもう一枚カードを出し、ディケイドライバーに装鎮した。

【ATTACK RIDE CLOCK UP!】

ディケイドカブトの周りにいるオルフェノクやロックマンの動きが遅くなった。

他の者からはディケイドカブトの動きが速く見える。

ディケイドカブトはクロックアップでオルフェノクを攻撃した。

「ゲアアッ!!」

「グッ!!」

「ガゴッ!?!」

ディケイドカブトの攻撃に怯むオルフェノクたち。

ロックマンはただ啞然としているだけである。

ディケイドカブトはオルフェノクが一ヶ所に集まっている所を見た後、すぐにカードをディケイドライバーに装鎮した。

【FINAL ATTACK RIDE KAKAKAKA BUTO!】

ディケイドカブトはオルフェノクたちに近づき、ライダーキックを

使った。

「グガアアアアアッ！！！！！」

「ギヤアアアアアッ！！！！！」

「グガオオオオオッ！！！！！」

ディケイドカブトの一撃により、灰となって崩れてしまふオルフェノク達。

そしてディケイドカブトが元のディケイドに戻っていく。

その後、すべてを片付いたと思っているように手を2回打ち付ける。

2章 予期せぬもの（後書き）

ちなみに光夏海、光栄次郎、小野寺ユウスケ、キバーラは出ません。

3章 アマケン、大ピンチ！

ロックマンとディケイドは変身を解き、スバルと土に戻る。

「あなたは一体・・・」

最初に質問してきたのはスバルである。
スバルは土に何者なのか尋ねた。

「俺は・・・サテラポリスとやらの・・・」

土は内ポケットから手帳をスバルの目の前に出した。

「ウワツ!？」

「遊撃隊だ。」

スバルが後ろに下がるのも無理は無い。
証明書はスバルの顔から8cmの所に出してあるから。

「とりあえずここで何が起きたのか聞かせてもらおうか？」

土は手短に質問する。

数分後、スバルと土は展望台に足を踏み入れる。

「最近になって電波ウィルスが増えてきて、現実姿を現してきたんです。」

スバルは土に今までのいきさつを教えた。

「大体分かった。」

士はそのいきさつを聞いて納得する。
その時、天地研究所から爆発音が聞こえた。

「な、なに!？」

『スバル、また電波ウィルスが出てきやがった!』

「ウソ!？」

ウォーロックから電波ウィルスが現れたと聞き、スバルは驚き出す。

「早速行くか。あいつの在り処が分かるかも知れねえからな。」

士はディケイドライバーを装着し、ライドブッカードからディケイドのカードを取り出した。

「変身!」

士はカードをディケイドライバーに装填した。

【KAMEN RIDE DECADE!】

士は仮面ライダーディケイドへと変身し、マシンディケイダーに乗り、天地研究所へと向かっていった。

「あいつ?」

『スバル! ボケツとしてねえでアマケンへ行くぞ!』

「う、うん!」

ウォーロックに怒鳴られるスバル。

スバルは電波変換の準備に取り掛かった。

「トランスコード、シューティングスター・ロックマン！」

スバルはロックマンへと電波変換し、ウェーブロードへと移動し、天地研究所へ向かっていった。

一方、天地研究所では響ミソラが電波変換した姿、ハープ・ノートが電波ウィルスを追った。

しかし、あまりの多さで疲れが増えていくばかりだった。

「ハアハア。スバル君、まだなの？」

ハープ・ノートが休んでいる間にも、電波ウィルスが襲い掛かってくる一方である。

「こんな弱い奴らに何苦戦してるんだい？」

「え？」

ハープ・ノートは後ろから声が聞こえていたので後ろを振り向いた。

【ATTACK RIDE BLAST!】

しかし、振り向くと同時に無数の銃弾が襲い掛かってきたのでハープ・ノートは床に伏せ始めた。

それにより、電波ウィルスが半分ほどデリートされていた。

「流石はロックマンの世界、あいつがここを気に入る訳が分かったよ。」

無数の銃弾を放ったのは、海東大樹が変身する仮面ライダーディエ

ンドである。

【BLAST】の効果で電波ウィルスを一掃したのである。

「さて、終わりにしようか。」

ディエンドはカードをディエンドライバーに装鎮した。

【KAMEN RIDE KIVA!】

ディエンドは電波ウィルスに向けて発砲した。

すると、電波ウィルスの目の前に仮面ライダーキバが現れた。
仮面ライダーキバは電波ウィルスに攻撃を繰り返した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5618h/>

SHOOTING STAR ROCKMAN/DECADE/

2010年10月10日18時46分発行